

よしまい

2022年 盛夏号



巣立ち間近のツバメのヒナ

目次

公園の風景

- ・ヒナ、すくすくと 1
- ・クロツラ居残り組、もしかして? 1
- ・イヌビワ 1

ラムサール登録への道 ④ 2

みんなの広場

- ・超次世代型ペット 2

活動紹介

- ・周防大島・なぎさ水族館を訪ねて 3
- ・ホームページ進化中 3
- ・夏・子の季節 3

発行：「葦の会」機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

mail ashinokai.kirara@gmail.com

HP ashinokai.html.xdomain.jp

「葦の会」はきらら浜自然観察公園で活動するボランティアグループです。自然を楽しみながら、その素晴らしさを一緒に学び伝えていきませんか？



会員募集中！(高校生以上)

公園の風景

= ヒナ、すくすくと =



対策は万全！

春に南の国から渡ってきて日本で子育てする代表的な夏鳥と言えばツバメですね。5月になると公園の屋外トイレに毎年のように巣を作るツバメのペアがいますが、かえったヒナがいつの間にか



消えてしまうという悲しい事態が続いていました。カラス除けの金網を張っても駄目だったので、犯人はヘビか？ということで、壁にヘビ除けの滑り台も取り付け見守るなか、今年は顔中を口にして餌をねだるひな鳥5羽を見ることができま

した。金網をすり抜けるのに苦戦していたようですが親鳥が上手に誘導したのでしょうか、全員何とか巣立って行ったようです。

その3日後には反対側の壁に新しい巣ができているのをレンジャーが発見。5個の卵を確認し、同じような対策をして見守っているところです。産卵からふ化まで約2週間、ふ化から巣立ちまで3週間ほど。手のかかるツバメたちですがまた可愛いヒナたちを見せてほしいですね。

= クロツラ居残り組、もしかして？ =

日本で越冬する冬鳥のクロツラヘラサギは春になると子育てのため朝鮮半島に帰っていきますが、



たまに、何らかの事情でそのまま居残るものもいます。最近、2羽が飼育されている園内クロツラケージの上で羽を休めているクロツラヘラサギが、6月のはじめにまず7羽、下旬には9羽、確認されました。彼らがどこから来たのかわかりませんが、ゲージ内のクロツラを見て安心するのか金網の屋根でくつろぎ、このまま山口湾

で越夏するつもりようです。2017年にクロツラ保護のためのケージを作った時、ゆくゆくはそうなればいいなと思い描いた通りの展開に、関係者一同、顔をほころばせています。現在、世界に6000羽ほどしかいないといわれる希少なクロツラヘラサギが、この山口湾で繁殖を始める日は近いかも知れません。

= イヌビワ =

クワ科イチジク属の落葉小高木で、園内ではあちこちで目にすることが出来ます。果実がビワに似ているもののビワに比べて味が劣るという理由から「イヌビワ」の名となったそうですが、ビワではなくイチジクの仲間です。

花は4~5月頃に咲きますが、「無花果」と書くイチジクと同様に実の中に隠れているので外からは見えません。イヌビワと共生関係にあるイヌビワコバチという蜂により受粉が行われ、種子が作られます。

雌雄異株で、雌木にも雄木にも実が付きますが、食べられるのは8月頃から完熟期を迎える雌木の実で、白い粉を吹いたような濃い紫色のものは若干の甘味があります。雄木の実の方は固くて食べられません。



ラムサール登録への道 ④



ラムサール条約には3つの理念があります。

1つ目は、湿地の「保全・再生」。読んで字のごとく、壊れやすい環境である湿地を守っていこうというものです。

2つ目は、「ワイズユース（賢明な利用）」。ラムサール条約に特徴的な理念で、湿地をただ守るだけでなく利用しながら維持しようというものです。登録される以前から行われていた漁なども闇雲に禁止になるわけではありません。

3つ目は、上記2つを進めるための「交流・学習」です。何事も知るところから始まります。この記事もその一環。皆と一緒に楽しく交流しながら知識を深めれば、湿地とも仲良くできること間違いなしです。

これら3つの理念は三位一体です。遊んだり食べたりして身近に感じる事が出来れば守りたいという気持ちもわいてきますよね。人間も生態系の一部として湿地の恩恵を子孫まで残していくためのラムサール条約なのです。

(つづく)

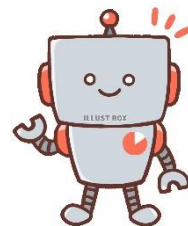
みんなのひろば😊

超次世代型ペット

エサは野菜くず（ないときはあげなくても大丈夫）、糞はしないので処理不要だし臭くもない、鳴かないし咬みつかない、でもさわると温かくて癒される…。うちにはそんなペットがいます。おかげでゴミ出しも指定袋小で2週間に一回程度。ほら、あなたも飼ってみたいくなったでしょ？上手に飼うコツは愛情をいっぱい注ぐこと。夏はいくらでもエサを食べますが、寒いのは苦手なので冬は室内で、消化しやすいように餌は細かく刻んでから。餌をあげるときにしっかり混ぜて温度を確かめるのも忘れずに。ほかほか元気な証拠です。

このペット、その名も「コンポスト君」。バケツにピートモスをぶち込んだだけのものなのに何とも可愛いヤツなのです。そこからさらに可愛さ部分が数十倍UPしたペット「G君」はもっとオススメ。大好物の人参と麦茶カスを与えると目の色が変わります！さて、G君のGは何のGでしょう？

気になる人は…自然観察公園に来て直接聞いてね♡（某レンジャー）



活動紹介

= 周防大島・なぎさ水族館を訪ねて =

6月5日(日)、ボランティア13人と宇部野鳥保護の会のメンバー4人の総勢17人で20人乗りのチャーターバスに乗り周防大島に行ってきました。大島大橋を渡り、運がよければスナメリが見られるかもということで、まずは久賀から出ている前島行の船に乗りこみました。片道20分、前島には5分の停泊でとんぼ返り。行きも帰りも雨の降りしきる海面に皆で目を凝らしましたがスナメリは姿を見せず。「人口7人の島へ5分ほど上陸した」という実績だけ残してきました(^^)。

気を取り直してまたバスに乗り、「道の駅サザンセトとうわ」へ。2階のピロティーで名物の穴子弁当の昼食をとった後、今回の目的地「なぎさ水族館」を訪れました。ここには世界で初めて人工養殖に成功したニホンアワサンゴの他、近海でさがしたという小さな珍しい生き物が、ユニークなコメントと共にたくさん展示されていました。大きなタッチングプールに入ってサメと戯れた人も。(サメはサメでもおとなしいドジザメでした(^^)/)

その後、道の駅まで戻り、干潮時のみ歩いて渡れる「瀬戸内のモンサンミッシェル」、真宮島(シングウジマ)までの海の道を往復したあと、めいめいがお土産を買いこみ帰路につきました。夕方6時過ぎに公園に到着。雨模様の1日でしたが、みんなでワイワイ楽しい研修旅行となりました。



ぎゅうぎゅうでも一緒にいたいゴンズイたち

= ホームページ進化中 =

今年度の4月からスタートした葦の会のホームページ、まだまだ試行段階ですが、新しい提案と実行力伴う仲間恵まれ、5月より新コーナー「観察記録」を加え、園内の旬な植物をメインに紹介しています。この植物をクイズにしたゲームも新登場しています。また、「よしきり」の表紙にある二次元バーコードでより簡単にホームページを見ていただけるようになりました。ご訪問お待ちしております。

<俳句教室 最多選句>

・ 葦の先に小さき宇宙天道虫 孝久

・ くるくるとワルツの途中採花 カツ子

5月

6月

= 夏・子の季節 =

恒例の夏休み子ども早朝観察会、今年は7月23日(土)に開催されます。公園行事として会が初主催したのは15年前のこと。初めての試みを15年間継続できたのは、開催に当たっての明確な趣旨が立てられていたからであり、当時の会員の熱い思いを感じます。それを軸に今、子供たちが何を期待しているのか、また我々は子供たちに何を学んで欲しいのか、楽しませるだけではない何かを模索するこの季節です。



<編集後記>

実感する間もなく梅雨が終わってしまい、すでに夏本番。でも暑いなんて言ってもらえない!夏の公園はイベント目白押しです。汗かき記事書き、の夏季!

(TKO)